

☆「特別支援教育」推進のために

夏休みが終わり、2学期がスタートしましたが、お子さんの様子はいかがでしょうか。
長い休暇の後は、大人でも仕事に行く足が重くなるものです。子供ならなおさらです。
少しでも気になることがありましたら、学校までご連絡なく、お知らせください。

さて今年度も、この特別支援教育通信「ひなただより」を毎月発行しているのは、“子供たち一人ひとりの将来のために、今(学童期)何をすべきか、学校と家庭とが一緒になって行動していく”ことが重要だと考えているからです。

そのためには、子供たちにある特性や困り感について、周囲の大人みんなが正しい理解をもち、同じ対応をできるようにすることが必要である、と考えます。

この通信に目を通して、保護者の皆様に考えていただき、これまで以上に子供たち一人ひとりがよく見えるようになればいいな、適切な支援が1つでも多くなされるようになればいいな、という想いで発行しています。文字ばかりで読みにくい面もあるかと思いますが、どうぞご拝読下さい。

2学期もよろしくお願い致します。

☆「褒める」を考える ～「褒めて伸ばす」は難しい?～

夏休みに、たくさんの特別支援の研修会に参加してきました。話を聞くと、特別支援のお子さんに限らずどのお子さんにも役立つ話がたくさんありました。保護者の皆さんにもお伝えしたいと思います。

大人はどうしても子供の「できていない事(望ましくない行動)」に目を向けがち。しかし、そればかりに目を向け叱り続けると、子どもは却って望ましくない行動が増えてしまいます。できていない事が多い子供ほど、今まで多くの注意を受け自分に自信が持てないからです。そこで、大人が「できていない事」ではなく、「今、できている事(望ましい行動)」に注目し、それを褒め、認めることで、子供の自己肯定感や安心感、達成感を持たせることができます。しかし、私自身もですが、我が子を褒めることって難しいですよ。以下にたくさん「褒める」、「認める」ためのワザを紹介します。是非実践されてみてください！

① 子供の発達段階を意識する。「9歳の壁」を境に、褒め方を変えましょう！

- 3年生までは、褒められたこと自体が嬉しい。「褒められたから頑張ろう!」と思える。
- 3年生からは、どうして褒められているのかをきちんと伝えと、実感がわく。

② 具体的に褒める。

- 「学校からのプリントをテーブルの上に出していたね。いいぞ!」⇒次もこの行動をするといいんだ!

③ その場で褒める。タイミングよく褒める。

- 望ましい行動をした、しようとしていることにこちらが気づき、褒めるタイミングを逃さない。

④ 25%ルールで褒める。

- 望ましい行動への過程を褒める。1つの行動を成し遂げるまでに、4回褒めるイメージで。
基準を低く、やって当たり前のことでも褒める。

⑤ 「ありがとう」で褒める。

- 「お風呂掃除してくれてありがとう。お風呂がきれいになって、お母さん嬉しいよ!」
⇒相手に伝わりやすいアイ・メッセージで、行動の意味や価値を伝える。